

津山市教育委員会通信

【津山市教育委員会】

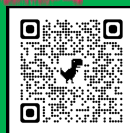
〒708-8501 津山市山北520

電話：0868-32-2112（教育総務課）

Eメール：kyouiku@city.tsuyama.lg.jp

ホームページはこちら

URL：city.tsuyama.lg.jp/city
/index2.php?id=8981



新年のごあいさつ

「昇れ もう一段」

津山市の教育をさらに推進します

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、コロナ禍以前の日常生活が戻りつつあることを実感されながら、穏やかな中にも、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は、保護者や市民の方々には、本市教育の推進に対しましてご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

今日、本市の子どもたちは、年々自己肯定感の醸成が図られ、小学校の学力は向上してきたと認識をしております。その背景には、以前のような教え込みの授業から児童が主体的に考える授業に変わりつつあり、明らかに授業改善が進んでいると確信をしています。日々の地道な授業改善に取り組んでいる本市の教員の方々には敬意を表する次第です。

一方で、課題は「中学校の学力向上」「多様な学びの保障（不登校対策）」「更なる郷土愛の醸成」が挙げられます。本年4月からはコミュニティ・スクールが全校実施となることから、学校運営協議会を核として、学校と地域がこれらの課題を共有しながら、小学校での成果をさらに上昇させるべく、具体的な取組を進めてまいりたいと考えています。

特に、多様な学びの保障については、3月までに「学びの多様化学校」（いわゆる不登校特例校）について、設置場所や教育形態等の具体的な検討をまとめ、来年度には設置方針を固める予定としております。今後、児童生徒の多様なニーズに応える教育体制の更なる構築を図ってまいります。

さて、今年の干支は「辰」です。龍の如く、猛々しく、強い意志をもって、新しいことに挑戦する年としたいと思っています。表題の「昇れ もう一段」は、子どもたちには、辰年にふさわしく、心優しく仲間を大切に、様々なことに挑戦し飛躍する年となることを願って書き記しました。また、教育委員会職員にとっては、教育施策の更なる充実・発展に向けて、もう一段ギアを上げることで、教育施策の更なる充実・発展に努めてまいります。

本年も、子どもたちや保護者一人一人の思いに寄り添いながら、教育課題に丁寧に向かい合い、課題解決に向けて着実に取り組むことで、子どもたち一人一人が、将来に希望と自信をもって、もう一步が踏み出していけるよう「自立できる人材の育成」に尽力してまいりたいと存じます。保護者・市民の皆様には、本年も本市教育の更なる向上に、ご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年 新春

教育長 有本 明彦

つやま子ども観光ガイド育成塾を開催しました！

津山の素晴らしい文化財や観光資源等を素材にした校外学習を通して、ふるさと津山に誇りと愛着がもてる子どもの育成を図る【つやま子ども観光ガイド育成塾】（全4回）を開催しました。5年目の今年度は「津山の牛肉 食文化のひみつ」がテーマです。参加した小中学生は、津山と牛の歴史、つやま和牛生産者の話を聞き、牛そづり鍋を実際に作って食べることを通して、ふるさと津山を再認識、再発見しました。

それらの学びや体験は、ガイド体験の本番において、イラストや写真入りの自作パネルや、オリジナルクイズの出題、そづり鍋を作ってきたの食リポなど、参加者それぞれの工夫により紹介されました。郷土愛を深める貴重な体験となりました。



【発表『おいしいよ つやま和牛』
津山観光センター前でのガイド体験】



ICT活用推進員が授業公開を行いました。

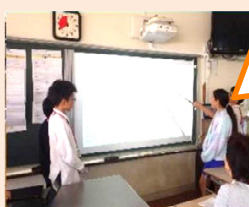
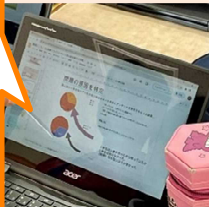


本市では、すべての教員の力量を高めていくことが必要であることから、本年度市内の小中学校8名のICT活用推進員を中心に、児童生徒が積極的に端末を活用している授業を公開しました。西小学校では、総合的な学習の時間における端末の活用を、勝北中学校では、数学科における端末の活用を行った授業実践を公開しました。

※ 1 岡山県教育庁義務教育課の「教科等におけるICT活用事例集」

西小学校 宮澤康平教諭 「総合的な学習～100年後も豊かなまち「津山城西」へ～」

津山産小麦を使ってお菓子を作るプロジェクトでは、GoogleFormのアンケート結果をグラフ化し、Googleスライドを使い企画書にまとめました。



駄菓子で地域を盛り上げようプロジェクトでは、お店の仕入れ担当の方に来てもらい、アンケート結果をもとに取り扱ってほしい駄菓子についてプレゼンを行いました。



空き家を活用し地域の交流の場をつくるプロジェクトでは、GoogleMeetを使って地域の方と企画書をもとに話し合いを実施しました。



伐採されたヒマヤ杉を使って西小100周年記念品を作るプロジェクトでは、プログラミングサイトScratchを使ってプロトタイプを作成しました。

参観者の先生の感想

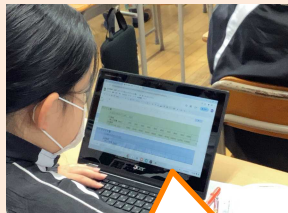
西小学校

授業の中で児童が主体的に動き、自分でICTを活用して活動に取り組んでいました。縦割りの中でも、6年生がリーダーとして頑張っており、ICT自体がメインになるのではなく、取り組みの中で自然に有効なツールとして使っているのがすごいと思いました。

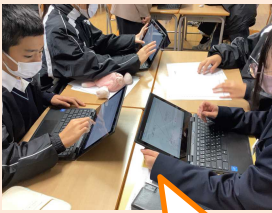
勝北中学校 唐木一成教諭 「数学科 比例・反比例～ガソリン車とハイブリット車～」



端末を活用するか、プリントを活用するかを自分で選択し、学び方を自己決定しました。



数値を入力するとすぐに計算ができたり、関数のグラフが作成できたりすることで、計算やグラフをかくことが苦手でも自分の考えをもつことができ、授業のねらいにそまることができました。



端末で計算やグラフ作成がすぐできることで、グループでの話し合いの時間が確保でき、対話による学びが深まりました。

勝北中学校

スプレッドシートGeoGebraを使って、簡単に答えを求めることができていました。そのため、考えを共有しやすく生徒にとっていいツールとなっていました。きっと紙よりもICTを使った発表の方が生徒はしやすいだろうと思いました。

新たな居場所（別室）での取り組み

学校に行きづらい教室に入りづらい生徒の校内での居場所です。



【学習の様子】

市内4中学校における不登校支援の別室運営も本年度で2年目を迎えました。別室内では、支援員の先生と教室の仲間と共に、安心して過ごせる居場所となり、学校への登校日数が増えてきた生徒が見られます。また、学校行事や部活動への参加も自ら考えたり、進路に向けた学習に取り組んだり、学校の中の新たな居場所で自分らしく自立に向けた学びが進んでいます。



【リモートの学習】



【畑の実習】

募集しています！ 学校教育

小・中学校講師、英語支援員
スクールヘルパー（教育支援員）

随時募集中！

子どもたちの成長を支援してみたい方、学校現場への復帰を考えている方など、まずはお問い合わせください。

【応募資格】

- ◇小・中学校講師
⇒該当する教員免許状を所有している
 - ◇英語支援員
⇒英検準2級相当以上の資格や技能を持っている
 - ◇スクールヘルパー
⇒教員免許状の有無は問わない
- 【申込・問合せ】

学校教育課 TEL 3 2 - 2 1 1 5

